

創造的復興研究会・第3回研究会
議事録

日時：2021年12月20日（月）18:00-20:15

方式：Zoom

出席者（敬称略）：

研究会代表：

松岡俊二：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授

研究会副代表（ABC順）：

林 誠二：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究グループ長

小野田弘士：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・教授（途中退出）

阪本真由美：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授（途中参加）

研究会メンバー（ABC順）：

永井祐二：早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授

岡田久典：早稲田大学環境総合研究センター・上級研究員

李 洸昊：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・助教

佐藤亜紀：HAMADOORI 13 事務局

島田 剛：明治大学情報コミュニケーション学部・准教授

高原耕平：ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター・主任研究員

豊田利久：神戸大学・名誉教授

辻 岳史：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究員

吉田 学：HAMADOORI 13・代表、株式会社タイズスタイル・代表取締役、福島県大熊町（欠席）

遠藤秀文：株式会社ふたば・社長、福島県富岡町

林 裕文：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭

小磯匡大：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭

小松和真：福島県広野町復興企画課・課長

南郷市兵：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校副校長

佐々木俊介：早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター・講師

戸川卓哉：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員

除本理史：大阪市立大学大学院経営学研究科・教授

オブザーバー：

小林正明：中間貯蔵・環境安全事業株式会社・社長

高橋洋充：福島東高等学校（途中退出）

藤川正浩：NHK 制作局

松本礼史：日本大学生物資源科学部・教授（途中退出）

笹尾英嗣：日本原子力研究開発機構・東濃地科学センター・地層科学研究部・部長

米倉 淳：福島イノベ機構

磯辺吉彦：広野わいわいプロジェクト・事務局長（途中参加）

宮野 廣：日本原子力学会・福島第一原子力発電所廃炉検討委員会・委員長（途中参加）

NUMO 技術部

福島地方環境事務所（途中参加）

双葉町復興推進課（途中参加）

事務局:

山田美香: 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・福島駐在研究員
朱 鈺: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程
中野健太郎: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士課程
松川希映: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・修士課程
倉重水優: 早稲田大学政治経済学部

プログラム

司会: 林 誠二: 国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究グループ長、研究会副代表
開会挨拶: 小野田弘士: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・教授、研究会副代表
報告:

1. 2050年の福島浜通りにおける産業ビジョンを考える

島田 剛: 明治大学情報コミュニケーション学部・准教授

討論者:

佐藤亜紀: HAMADOORI 13 事務局

吉田 学: HAMADOORI 13・代表、株式会社タイズスタイル・代表取締役

豊田利久: 神戸大学・名誉教授

岡田久典: 早稲田大学環境総合研究センター・上級研究員

辻 岳史: 国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員

2. ふくしま浜通りエコミュージアム構想・予備調査報告

高原耕平: 人と防災未来センター・主任研究員

永井祐二: 早稲田大学環境装具研究センター・研究院准教授

中野健太郎: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士課程

閉会挨拶: 阪本真由美: 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授、研究会副代表

なお、第3回創造的復興研究会は、地域社会と伝承館との「対話の場」検討グループとの合同会合として開催した。

司会: 林 誠二 (研究会副代表)

報告1「2050年の福島浜通りにおける産業ビジョンを考える」

・島田委員は、2050年の福島浜通りにおける産業ビジョンについて、経済成長の核となる「イノベーション」、新しいアイデアをもたらす「弱いつながり」、人々が町づくりへの「期待」という3つのコンセプトを提案した。

・討論者の佐藤委員、吉田委員、豊田委員、岡田委員、辻委員はその提案をめぐって、以下のような意見があった:

- 現在のイノベーションコースト構想に対し、地元の期待感が薄い。期待感を醸成するために、地域での小さいストーリーと日本の課題という全体像との繋がりを理解する必要がある。
- 地域の人々が何を期待しているかを調査する必要がある。
- これまで福島復興のために人を集めようとしてきたが、これから先端技術を地域に集積させることで、自分の利益・価値を目指す人にも来てもらいたい。
- 大学がプログラム・マネジメント(既存なものをどう運用するかを考える)として、緩やかなネットワークを作ることが求められる。
- 震災を機にできた繋がりをいかに育てるかが課題である。イノベーションコースト構想を通じ県が作ったネットワークと、地域で自然と形成したネットワークをどう繋げるかを考える必要がある。

・今後の研究会では、島田委員による3つのコンセプトから、どのように創造的復興モデルを作るのかを追究していく。3つのコンセプトの内容や関係性を明確にしつつ、福島復興の中でどのように具体化

するのかについて、社会イノベーション（SI）構想とも関連させつつ考えていきたい。

・「イノベーション」、「弱いつながり」、「期待」の意味や具体的な姿が、「国や地方行政の立場」、「企業や事業者の立場」、「地域住民や生活者の立場」によってどのように違うのか、あるいは同じなのかも、理論的・実証的にも詰めていくことが重要である。この点も引き続き検討していきたい。

報告2「エコミュージアム構想・予備調査」&「福島浜通り復興研究ワークショップ実施アンケート分析」

・高原委員は、本年11月下旬に実施した福島浜通り地域での現地調査結果について報告した。調査は浜通り地域でエコミュージアムを構築するポテンシャルを探ることを目的とし、地域内の代表的なミュージアム系施設を訪問し、展示形態等を調べ、また各施設責任者に面接調査を行った。

・永井委員は、本リサーチセンター主催の福島浜通り復興研究ワークショップの実施状況、およびワークショップの参加者を対象としたアンケートの結果を報告した。

・エコミュージアム構想は報告1の「イノベーション」、「弱いつながり」、「期待」の具体化の一つの形として、大変重要な試みである。2050年の1F世界遺産登録という大きな社会目標（大きな物語）の必要性や重要性とも関連させ、さらにエコミュージアム構想のベースライン調査を継続したい。

今後の予定について

2022年

1月15日(土)13:00-17:00 第2回シンポジウム「福島第一原子力発電所・事故調査と1F廃炉の将来像を考える：原子力規制委員会の1F事故調査・分析と1F廃炉政策」

1月30日(日)10:00-17:00 第9回ふくしま学（楽）会

3月2日(水)16:00-20:00 第11回原子力政策・福島復興シンポジウム（予）

以上